

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600194		
法人名	株式会社アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームみのり新中野		
所在地	苫小牧市新中野町1丁目3番20号		
自己評価作成日	平成27年3月1日	評価結果市町村受理日	平成27年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様と職員の会話も多く、「笑顔の絶えない明るく家庭的なホーム」作りを心掛けている。併設した小規模多機能居宅介護との交流、季節ごとの行事、近隣公園への散歩、買い物、外食、地域のお祭りへの参加等利用者様の希望に添った支援ができるよう、ご家族様、ボランティア地域の方々との協力を頂き毎日元気に笑顔のある生活を送ることができるよう努力している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0193600194-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成27年3月11日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームみのり新中野」は、苫小牧駅から車で10分程の静かな住宅地に立地している。併設している同法人の小規模多機能施設と合同で事業所行事や運営推進会議、避難訓練などを実施したり、定期的なメイクボランティアや傾聴ボランティアなどを受け入れながら利用者間の交流も活発に行われている。建物内は、居間と食堂が分かれている広々とした造りで、1階の浴室は温泉になっている。運営推進会議は、外部講師による勉強会などを取り入れ、数名の家族も毎回参加して充実した会議が行われている。法人による接遇指導も定期的の実施されており、職員はそれぞれの利用者に対して温かな言葉かけで適切な支援を行っている。管理者は、日頃から職員の意見や提案に耳を傾けて率直な意見交換を行い、各利用者の残存能力を活かしながら、一人ひとりが元気で笑顔のある生活を送れるように職員と共に支えている。遠方で生まれ育った利用者も馴染みのものが継続できるように、生まれ故郷の名物などを聴いて一緒に食べに出かけたり、昔食べた物を利用者と一緒に作る計画なども立てている。新しい利用者の家族にカンファレンスに参加して貰うなど、各利用者の思いを把握しながら現状に即した介護計画を全職員で作成している。

V. サービスの成果に関する項目(はすかっぱ館アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(はすかつ館)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所、リビングに掲示、意識を共有し、サービスの向上に努めている	「地域のぬくもりの中で、いつも元気に笑顔のある生活を支援し続けます」という、事業所独自の理念を作成して入社時に説明している。会議や年末に全職員で振り返りを行いながら、理念に沿ったケアが実践できるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入、地域のお祭り等に参加、町内会からもホームのお祭り、防災訓練等に協力して頂き、交流を図っている	町内会役員から地域行事の案内を貰い、盆踊りなどに参加している。メイクや傾聴ボランティアの他、事業所行事に合わせて大正琴のボランティアなどが来訪している。町内のお祭りでは、子供神輿に利用者がお菓子を渡すなどの交流もある。	定期的な子供達と交流する機会が増えるように、保育園や小学校などに働きかけを行うよう期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等でホームとしての取り組みの状況や日常の様子を報告している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を開催、市職員、地域包括支援センター、町内会、ご家族様に参加頂いている。ホームの活動状況、事故報告を行い、意見を頂きながらサービスの向上に努めている	全家族に案内を送付し、毎回数名の家族の参加を得て小規模多機能施設と合同で開催している。外部講師を招いて「失語症」や「トイレのぼこぼこ講座」などを行っている。町内会から災害対策の意見交換会の情報を貰い、管理者が参加している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的な生活支援課の面談のほか、介護福祉課へは運営に関しての相談を随時行っている。2ヶ月に1度の運営推進会議にも出席して頂き、協力関係を築くよう取り組んでいる。	管理者は、運営に関する相談や書類の提出などで市役所を訪問している。生活支援課や介護福祉課と成年後見人制度などについての相談も行っている。日頃から情報交換をして、何かあればすぐに相談できる関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関の鍵は開錠している。また個々の状況に応じ、安全、安心に過ごすことができるよう生活環境の整備や見守りの強化で危険の防止に努め、拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人として「禁止の対象となる具体的な行為」を記載したマニュアルを整備している。事務所やロウカールームなど、職員の目につく所に「具体的な禁止行為」を掲示して意識づけを行っている。管理者は、拘束につながるような声かけがあればその都度職員を指導している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修等にも参加、会議の場にて意見交換、情報の共有を行い、虐待が見過ごされることのないよう取り組んでいる。			

グループホーム みのり新中野

自己評価	外部評価	項目	自己評価(はすかつぶ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について、必要性のある利用者様へ活用できるよう関係者、職員と話し合いを進めているところである		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には利用契約書、重要事項説明書を読み上げ、十分に説明し理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置のほか、運営推進会議で意見を頂いている。また、面会時に要望等お聞きするよう努めている	毎月発行している「みのり通信」に手書きのコメントを掲載したり、家族の来訪時やメールなどで本人の様子を伝えている。家族からの些細な意見も連絡ノートに記載して情報を共有しているが、今後は個別に記録する事も考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡ノートの活用、毎月のユニット会議で意見交換を行っている。年に2回管理者と職員の面談を実施、意見、提案を聞く機会を設けている	会議に出席できない職員の意見は事前に聴き取り、会議に反映させている。職員から出された意見や提案についてはその都度全職員で検討しているため、各職員は率直な意見交換が出来ていると感じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況、努力や実績を把握し、向上心を持って働けるよう支援している。資格取得支援制度も設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での管理者研修、定期的なスタッフ研修の他、資格取得支援制度も設けている。また法人外での研修通知を回覧し研修を受ける機会の確保、自主希望による受講を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外の研修や市のグループホーム連絡会の研修に参加し、交流の機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(はすかつぶ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様の情報を基に生活歴の把握に努め、利用者様の要望をケアに反映できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始までの間にそれまでの経緯や不安、要望について話を聴く機会を設け話しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人様、ご家族様の状況を把握し意向を確認しながら適切な支援を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々人のできること、支援があればできることを見極め、入居者様と職員が共に支え合う関係作りに努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事、運営推進議の呼びかけや面会時、電話、通信でホームの様子をお伝えし、共に支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人が気軽に面会に来て頂けるよう、ご家族にも協力頂き支援に努めている	宗教関係の友人が来訪したり、家族と馴染みの美容室や以前住んでいた家を見に行くこともある。生まれ故郷の名物などを聴いて、一緒に食べることもある。昔作って食べたという故郷の特産品を、利用者と一緒に作る計画も立てている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を見極めながら、孤立することがないように配慮している。時には職員が介入し支え合える関係を築けるよう支援に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(はすかつぶ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談、協力の意思をご家族様へお伝えしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中で、会話、行動、表情等から希望、意向を把握できるように努めている。ご家族様、職員間の情報も取り入れ「本人本位」に検討している	カンファレンスなどで、職員間で情報を共有しながら、本人の思いや意向を把握している。センター方式を利用して変化を追記しているが、定期的に書類の更新を行うまでには至っていない。	追記した情報を活かしながら、定期的にセンター方式の書類を更新するよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からの情報を収集している。日々の関わりの中で知り得た情報は職員間で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできることで、支援があればできることを職員間で共有し、現状に適したケアに努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員、他職員、看護師からも意見を出してもらい定期的に話し合い、見直しを行っている。ご家族様からも意見、要望を頂き現状に即した介護計画作成に努めている。	利用者担当が行ったアセスメントシートや評価表を基に全職員で検討して、計画作成担当者を中心に3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。介護計画は家族と本人にわかりやすく説明して、可能な場合は本人に署名も貰っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、職員間での情報共有により現状の把握に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に応じて、ご本人、ご家族様のニーズに対応できるよう考慮し、柔軟な支援できるよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事に参加したり、地域のボランティアの方に来訪頂き、カラオケ、踊り等交流を通し豊かな生活を楽しむことができるよう支援に努めている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診支援を行っている。利用者様、ご家族様の希望に応じ協力医による往診を受ける等適切な医療を受けられるよう支援している	以前からのかかりつけ医を継続している利用者が多く、家族が受診支援している。体調変化がある時は、看護師が「日常経過報告」用紙に記載して家族に渡している。今年度から更に「受診経過記録」を整理して、個別の記録に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(はすかつぶ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤にて看護師配置、利用者様の健康管理や医療面での相談、助言を得ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は職員が面会に行き、ご本人様の状況の確認を行っている。また、病院側と情報交換、相談を行い関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における指針を定め、ご家族様への説明、同意を得ている。	法人として「重度化した場合における(看取り)指針」を整備し、利用開始時に説明している。体調変化に応じて家族、主治医、事業所間で方針を話し合い、可能であれば希望に応じて看取り指針を作成して看取りを行う旨を伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応についてのマニュアルを整備し周知徹底を図っている。看護師によるAEDの使用方法や急変時の対応についての勉強会を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により定期的に日中、夜間想定の方針訓練を行っている。訓練時には町内会、ご家族様にも参加、ご協力を頂いている。町内会の「災害対策についての説明会」にも参加しており、備蓄品も備えている	小規模多機能施設と合同で、10月に日中の火災を想定した自主訓練を行っている。3月に消防署と地域住民の協力を得て夜間想定の方針訓練を予定している。職員の救急救命訓練も計画的に受講し、利用者と一緒に地震時を想定した簡単な訓練も行っている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けのタイミング、声の大きさ、周りの状況に配慮し一人ひとりに合わせた言葉掛けや対応に努めている	気持ちで寄り添うように接し、利用者の名前は「さん」付けで呼んでいる。トイレ内のバットも扉付の棚に保管している。本社の接遇を含めたモニタリングを年に2回実施し、結果を全職員へ報告し振り返りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が答えやすいような声掛けの工夫で自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせて、その日の体調や気持ちに配慮しながら、希望に添った過ごし方ができるような支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容を利用したり、着たい洋服を選んで頂けるよう支援している。お化粧品、髭剃り等自由にその人らしい身だしなみやおしゃれを楽しめるよう支援に努めている		

グループホーム みのり新中野

自己評価	外部評価	項目	自己評価(はすかつぶ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食前後のテーブル拭き、後片づけ等それぞれにできることを職員と共に行っている。広告や料理の本等でコミュニケーションを図り、食事を楽しんで頂けるよう工夫している	本社の管理栄養士が作成したカロリー計算と栄養バランスの取れた献立を基に、外食や行事食、おやつなど工夫して食事を楽しんでいる。職員も介助しながら楽しく会話をして同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を記録し、把握している。一人ひとりの状態に合わせた形態、味付けに工夫し、摂取量を確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに声掛けし、本人の力に応じた口腔ケアを行い清潔保持に取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握できるよう記録し、トイレでの排泄を基本に考え一人ひとりに必要な支援を行っている。	利用者全員の排泄状況を記録して排泄パターンを把握し、利用者毎に適切にトイレ誘導や、パット交換ができるよう配慮している。無理に下剤に頼らず、ヨーグルトや乳酸菌飲料で自然な排便を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握し、声掛け等により確認、記録している。飲食物の工夫や運動等で個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望、状態に添って行っている。また入浴されていない期間や希望があれば要望に添い支援している。	午後の時間帯で、職員の見守りや支援で利用者毎に週2回は湯船につかったりシャワー浴をしている。脱衣場では好きな音楽をかけてリラックスできるよう配慮している。併設の小規模多機能施設の大きな浴室で、天然温泉を利用する事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、その時々状況に応じて安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情をファイルし職員が確認できるように整備している。服薬は職員2名での声出し確認を徹底、更にご本人様に声掛け確認し誤薬防止に努めている。服薬の症状の変化は記録し、職員間で情報把握をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や力、意欲に合わせ役割や出来ること、楽しみ等張のある日々を過ごせるよう支援している。		

グループホーム みのり新中野

自己評価	外部評価	項目	自己評価(はすかつぶ館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添って買い物、散歩等戸外に出掛けられるよう支援に努めている。外食、大型ショッピングセンターでの買い物等、車椅子利用者様も一緒に出掛けられるよう車での外出も行っている	散歩で近隣の公園まで歩いたり、買い物や外出行事で植物園、港まつり、花見、紅葉見物、ウトナイ湖に出かけている。遠くまで出たくない利用者は中庭で焼肉をしたり、本人に希望を聞いて、車椅子も利用可能な福祉車両で出かけている。町内の盆踊りにも、職員と一緒に数名が参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際には職員が付き添い、会計を自身で行って頂く等の支援を行っている。一部の方はご本人様、ご家族様と話し合いをし、自己管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じ、いつでも電話ができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビング、廊下等に既設の移り変わりが感じられる飾り物をしたり、利用者様、職員が作った作品を飾る等明るく、居心地の良い雰囲気作りに配慮している	共用部分は滑りにくいフローリングで、明るく清潔感のある居間は、食卓テーブルの他にテレビの前にソファがあり自由にくつろげる場所になっている。壁には季節感のある作品を掲示し、温かな雰囲気が感じられる。パネル式暖房器、加湿器やイオン発生器で適度な空調と温湿度が管理されている。1階浴室は天然温泉になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置に工夫し、くつろげる環境作りに配慮している。気の合った者同士が談話したり、思い思いに過ごせる居場所作りを工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内家具等は使い慣れた物、好みの物を持参して頂けるようご家族様と相談しながら、ご本人が安心して、居心地良く過ごせる環境作りに配慮している	それぞれ使い慣れた品物を持ち込み、壁には家族の写真や懐かしいものが飾られている。仏壇を置いている利用者もあり、菓子を仏壇に上げたり花を飾っている。フローリングで清潔感があり、安心して過ごせる落ち着いた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室等場所の目印となる札を付けている。エレベーターの設置、トイレ、廊下、浴室に手摺りを設置、安全に、できるだけ自立した生活ができるよう工夫している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600194		
法人名	株式会社アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームみのり新中野		
所在地	苫小牧市新中野町1丁目3番20号		
自己評価作成日	平成27年3月1日	評価結果市町村受理日	平成27年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「はすかつぶ館」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0193600194-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年3月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(ななかまど館アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ななかまど館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時や1年研修、2年研修で周知され、事務所に掲示し、常に理念実現に近づけるよう日々努力している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域のお祭り等に参加している。町内会からもホームのお祭りや防災訓練等に協力頂き、交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等でホームとしての取り組みの状況や日常の様子を報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、ホームの取り組みに関する報告や意見交換を行い、サービスの向上に努めている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には介護福祉課職員に出席頂いている。ホームの活動状況や事故に関する報告を行い助言を得、協力関係を築いている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修に参加、職員間での勉強会を実施、全職員が意識してケアに取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等参加、職員間での勉強会を実施、「不適切なケア」に対する意識が希薄にならないよう努めている		

グループホーム みのり新中野

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ななかまど館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について、全職員が理解しているとは言い難いが必要性のある利用者様へアドバイスができるよう勉強会等を取り入れ理解を深めるよう努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には利用契約書、重要事項説明書を読み上げ、十分に説明し理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、電話にてご家族様の要望をお聞きし、意見を反映させていけるよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡ノートの活用、毎月のユニット会議で意見交換を行っている。年に2回管理者と職員の面談を実施、意見、提案を聞く機会を設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況、努力や実績を把握し、向上心を持って働けるよう支援している。資格取得支援制度も設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での管理者研修、定期的なスタッフ研修の他、資格取得支援制度も設けている。また法人外での研修通知を回覧し研修を受ける機会の確保、自主希望による受講を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームで作られている「グループホーム連絡会」を通じ同業者と交流する機会を設けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ななかまど館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様の情報を基に生活歴の把握の努め、利用者様の要望をケアに反映できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始までの間にそれまでの経緯や不安、要望について話を聴く機会を設け話しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人様、ご家族様の状況を把握し意向を確認しながら適切な支援を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員が共に楽しみながら、ご本人様のやりたいこと、できることを見つけていくよう努め、関係作りをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	積極的にご家族様とコミュニケーションを取るよう心掛けています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の友人、知人が気軽に訪ねられようご家族様にもご協力頂き支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、カラオケ等全員が参加できる様声掛けし、皆で楽しめるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ななかまど館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談、協力の意思をご家族様へお伝えしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1度のユニット会議で入居者様のニーズ、行動や発した言葉をアセスメントし意向の反映に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルやご家族様に情報を頂き、細かな情報収集を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴や性格、現在の様子状態、能力等、入居者様の要望を把握するよう努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々入居者様やご家族様と情報交換、コミュニケーションを図り、月1度の会議で課題と対策を検討し介護計画として立案している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の言動や介護計画に沿った支援を記録しプランの実践、評価に役立っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に応じて、ご本人、ご家族様のニーズに対応できるよう考慮し支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安全、安心した暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	かかりつけ医への受診支援を行っている。利用者様、ご家族様の希望に応じ協力医による往診を受ける等適切な医療を受けられるよう支援している。		

グループホーム みのり新中野

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ななかまど館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤にて看護師配置、必要時相談、助言を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は職員が面会に行き、ご本人様の状況の確認を行っている。また、病院側と情報交換、相談を行い関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における指針を定め、ご家族様への説明、同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応についてのマニュアルを整備し周知徹底を図っている。また会議にて看護師による急変時の対応についての勉強会を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により定期的日中、夜間想定防災訓練を行っている。訓練時には町内会、ご家族様にも参加、ご協力を頂いている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様のプライバシーや羞恥心へ配慮した声掛けを行っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々人に合わせた方法で接し、常に入居者様の希望に添えるよう心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いやペースを把握し、それぞれの希望に応じた生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びや整容等個々人の希望に添えるよう支援している		

グループホーム みのり新中野

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ななかまど館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食後にお盆拭きを手伝って頂いたり、一緒に食事作りを行い交流を深めている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は個々人に合わせた量を提供し、形態も個々人に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。自身でできない方には職員の支援にて口腔内の清潔を保持している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録の排泄チェック表に記載、排泄パターンを把握したうえで、個々人に合わせた排泄支援を実施している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用、個々人に合わせた排泄支援を実施している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後からの入浴となっているが、できるだけ利用者の希望、状態に添って行っている。また入浴されていない期間や希望があれば要望に添い支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人の身体状況に合わせて、臥床やソファでくつろいで頂く等休息支援を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用は個別に薬情ファイルに保管、全職員に周知している。服薬時には飲みこぼしがないよう職員が見守りを行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や力、意欲に合わせて役割や出来ること、楽しみ等張のある日々を過ごせるよう支援をしている。		

グループホーム みのり新中野

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ななかまど館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に添って散歩や買い物等に出掛けられるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はホーム預かりだが、買い物の際には職員が付き添い、会計を自身で行って頂く等の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じ、いつでも電話ができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様や職員の作品を飾る等明るい雰囲気配慮している。季節感を取り入れる等の工夫もしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新聞を読んだり、趣味を楽しんだり気の合った利用者同士で談笑できるよう席の配置を工夫、くつろげる環境作りに配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の写真や仏壇を含め、馴染みのものや使いなれたものを持ってきて頂き、ご本人様が安心して居心地よく過ごすことができるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	車椅子や歩行器を使用している移動もできるような十分なスペースが確保されている。リビングや廊下の歩行スペースには極力物を置かないよう配慮している		

目標達成計画

事業所名 グループホーム みのり新中野

作成日：平成 27年 3月 24日

市町村受理日：平成 27年 3月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	センター方式シートを利用、変化を追記しているが、定期的な更新にまで至っていない	追記した情報を更新、活用していく	センターシートの定期的な更新	1年
2	2	町内会との交流は増えてきているが、近隣の児童と触れ合う機会が少ない	近隣の小学校、保育園との交流の機会を持つ	近隣の小学校、幼稚園、保育園と交流が持てるよう働きかける	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。